

平成29年度 職員研修（主題研究）計画

1 研究主題・副題

自立心を持ち、自己の生き方を追究する幼児児童生徒の育成
～学力向上を目指した、キャリア教育の実践をとおして～

2 主題・副題の設定について（3か年研究の3年目）

（1）社会的背景から

- 適切な勤労観や職業観を育みながら、社会人・職業人としての自立心を高めていくことは、学校教育における喫緊の課題であり、キャリア教育はその中心になる。
- 全国学力学習状況調査等の結果を見ると、宮崎県では「正答率が全国平均を上回る学校とそうでない学校」という構図で、学力が2極化してきている。また、全国平均を下回る学校が増えてきている。教師が授業力を向上させ、子どもたちの学力を高めることが求められている。

（2）本校の幼児児童生徒の実態と昨年度の研究のまとめから

- 町外の高校に進学し、寮に入る等して生活する学園生が多いことから、自立心を育むことは必要不可欠である。
- 昨年度の研究のまとめでは、「自立心が身に付いたと感じた学園生は8割に達したが、教師側からの評価では8割に達していない」、「進路意識と生き方追求について力が身に付いたと感じた学園生は8割に達しなかったが、教師側の評価では8割に達した」というちぐはぐな結果が出ている。「キャリア教育における力が身に付いた姿」を学園生と教師が共有しながら学習活動を行い、評価していく取組が必要である。
- 本校においても、学習に関する諸検査の結果から、「正答率が全国や県平均を上回る学園生とそうでない学園生」という構図で、学力が2極化してきている。やはり、教師が授業力を向上させ、学園生の学力を底上げしていく必要がある。学力向上は、進学する高校を選択する際に大きく関与することから、学園生の自立の基礎の確立とも言える。

（3）研究のイメージ

自立心を持ち、自己の生き方を追究する幼児児童生徒

<学力向上>

- 各教科等における、「① 基礎的・基本的な知識・技能」、「② 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」、「③ 主体的に学習に取り組む態度」の向上
※本校では、上記の①～③の向上を「自立の基礎の確立」としてとらえる。
- 「自立心・進路意識・生き方追求」の向上

「分かる・できる」授業づくり
教師一人一人の授業力向上

28年度に本校で作成した「キャリア教育ロードマップ」の活用と評価

3 研究内容

(1) 一人一研究を軸とした授業実践と改善

- 学力向上のための各教科等における手立ての工夫
- 手立ての有効性の検証と改善

(2) 美郷科・きたごう科の実践と改善、3年間のまとめ

- キャリア教育の視点における手立ての工夫（「キャリア教育ロードマップ」を活用しながら）
- 手立ての有効性の検証と改善
- 3年間の取組の成果と課題の整理
- 次年度以降の美郷科・きたごう科の準備

4 研究計画

(1) 一人一研究を軸とした授業実践と改善

① 5月下旬～6月上旬

- 各自の研究テーマ、研究内容の設定と学園生の実態把握…様式1（別紙参照）にまとめて、6月9日（金）までに研究主任まで提出

② 6月中旬～下旬

- 研究テーマ（教科等）ごとに、研究グループの決定…研究部でグルーピング
- グループごとに、各自の研究テーマや内容についての話し合い（助言等）…6月28日（水）の主題研究の時間で予定しているが、学校支援訪問が7月上旬に決まった場合は、6月中旬で設定。

学校支援訪問が7月上旬に決まった場合

- 6月下旬までに指導案の作成
 - 6月中旬に代表授業者の指導案検討
 - グループから1名ずつ、3名の代表授業と全員の参観授業
- ※詳しくは、別紙1「学校支援訪問に向けて」を参照

③ 7月中旬～12月

- 研究テーマに沿った、日々の授業実践
 - グループごとに、中間報告会の実施（夏季休業中）
- ※中間報告会の内容については後日提案
- 研究授業と授業研究会の実施（全員、10～12月）
- ※詳しくは、別紙2「研究授業と授業研究会に向けて」を参照

④ 1月～2月

- 各自で研究のまとめの作成 ※様式は後日提案
- 全体での研究報告会の実施
- 研究紀要作成

(2) 美郷科・きたごう科の実践と改善、3年間のまとめ

① 4月～12月

- 美郷科・きたごう科における日々の授業実践（学級担任）…「キャリア教育ロードマップ」を活用しながら、「自立心・進路意識・生き方追求」を高める手立ての工夫と検証、改善
 - 各自で実践のまとめの作成
- ※様式は後日提案（A4の半分程度の予定）
- 実践報告会の実施

② 6月

- 「自立心・進路意識・生き方追求」について、学園生への意識アンケート（研究主任）

③ 1～2月

- 「自立心・進路意識・生き方追求」について、学園生と職員への意識アンケート（研究主任）
- 3年間の取組の成果と課題の整理
- 研究紀要作成
- 次年度以降の美郷科・きたごう科の準備

【様式1】

平成29年度 美郷北学園主題研究「一人一研究」 研究の構想

氏名 ()

1 学園生の実態

(1) 対象学年・組… () 年・組

(2) 研究教科等… ()

(2) 年度当初における実態

○ ああああああ・・・

○ いいいいいい・・・

● うううううう・・・

● ええええええ・・・

・良い点は白丸、課題は黒丸で、箇条書きでよい。
・普段の学習等の様子や、諸学力調査の結果等を参考に
して書く。諸学力調査の結果については、今年度の全国・
みやざき学力調査や昨年度の標準学力調査の結果が参
考にできる。

2 研究テーマ

主題「 」
副題「 」

・主題は、上記の実態における課題を解決した学園生の姿を目指すものがよい。
「・・・な児童（幼児、生徒）の育成」等
・副題は、研究教科や研究内容に沿って設定できるとよい。
「・・・科における・・・の指導をとおして」等
※副題は、必ず設定しなければならないものではない。必要なければ設定しなくてよい。

3 研究内容

(1) ...を高めるための手立ての工夫

(2) ...を伸ばすための手立ての工夫

・上記の学園生の実態における課題に沿って設定する。
・研究内容は1～2点に絞る。
・できるだけ本校「学力向上ジャスト3」に関わる内容
にする。
・研究内容の文末については「・・・の在り方」、「・・・
の究明」、「・・・の追究」等、様々でよい。

LANDISK 共有 → H29ALL → 「16 主題研究」のフォルダの中に
データがあります。

【様式1】

作成の例

平成29年度 美郷北学園主題研究「一人一研究」 研究の構想

氏名 ()

1 学園生の実態

(1) 対象学年・組… (5) 年・組

(2) 研究教科等… (算数)

(3) 年度当初における実態

- 基礎的な知識・技能については、全体的によく身に付いている。4年生で学習した「小数×整数」、「小数÷整数」等の計算も正確にできる。
- 4月に実施された、みやざき小学校学習状況調査では、算数のB問題における、説明を記述する問題の正答率が低かった。
- 個人思考の際に「先生、早くやり方を教えてください。」という発言をする児童が数名いる。全体的に、「答えは後から、先生や誰かが教えてくれる。」という雰囲気があり、解決方法を自ら発見しようとする意欲が低い。
- 「答えは分かるけれど、説明するのが面倒だ。」という発言が聞かれることがある。また、人の説明を一方向的に聞くだけの児童もいる。みんなで考えを出し合って解決していこうとする意識が低い。

2 研究テーマ

主題「自ら」そして「共に」学ぶ児童の育成」
副題「算数科の授業における実践をとおして」

3 研究内容

(1) 子どもに問いをもたせる導入の工夫

(2) 式と図を関連させた話合いを生み出す発問の工夫

【別紙 1】

学校支援訪問に向けて

1 学校支援訪問日について

- 7月上旬で実施する可能性がある。7月でなければ、2学期での実施となる。

2 授業と事後研究会について

- 基本的に全員指導案を作成し、授業を行う。
- 各研究グループから代表者1名が、代表授業を行う。(計3名の予定)
- 授業後には、指導主事から、授業者一人一人に指導助言をしていただく。(指導主事と授業者の一对一で、一人15分程度)
主に「本時の主張」(※次ページ以降の指導案形式で説明)の有効性、本校「学力向上ジャスト3」の視点において指導助言をしていただく。
- 代表授業については、各グループで授業研究会を行う。よって、代表授業者については、2学期における研究授業と授業研究会を先行して実施したことになる。

3 指導案作成について

- 学校訪問日が7月上旬で決定した場合は、6月23日(金)までに以下のことを済ませておく必要がある。

- ① 指導案の作成
- ② 指導案の起案
- ③ 返却後の加筆・修正
- ④ 最終版の指導案を研究主任まで提出

その後、26日(月)～27日(火)で印刷し、学校支援訪問のしおりとして製本する。28日(水)には、教育委員会や指導主事宛に送付する。

- 指導案の形式については、次ページのとおりとする。

- 北部教育事務所による学習指導案形式例をもとに作成しました。
- ここでは、小学校の学習指導案の形式を示していますが、**太字のゴシック体で示している部分は、本校独自の部分になりますので、必ず設定してください。**
- 用紙形式は、Word・・・余白は「やや狭い」（上下約25mm 左右約19mm）設定
 - ※一太郎では、文書スタイルで上記の余白に設定
 - フォントは明朝体 フォントサイズは10.5pt
 - 行数・文字数は、45字×40行程度で、多少の相違は可とします。

□□第○学年○組□○○科学習指導案

平成29年 7月 ○日

指導者□□□○○○○○

1 単元（題材）

2 目標

- ……しようとする。（関心・意欲・態度）
- ……できる。（思考・判断・表現）
- ……できる。（技能）
- ……できる。（知識・理解）

年間指導計画に示されている単元（題材）の目標を確認した上で、児童生徒の実態に合わせた単元目標（題材目標）を設定し、明確に記述する。語尾は統一する。

3 指導観

- 教材（題材）観
 - ※ 学習指導要領との関連、教材（題材）の教育的意義や主なねらい、本質的なとらえかた、系統の位置づけ等を明確に記述する。
- 児童生徒観
 - ※ 単元に関する「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」等について、児童生徒の特性や傾向等を記述する。（「本学級は男子○名、女子○名～」や、「児童生徒は明るく、元気で～」などは不要）
 - ※ これまでの主体的な学習のための指導の経緯や現状についても必要に応じて記述するようにする。十分育っていない面からだけでなく、長所やよさ等についても明らかにする。
- 指導観
 - ※ 教材（題材）観、児童生徒観をもとに、「○○の手立て（○○の活動）をとおして目標に迫る」という授業者のねらいや意図を明確に記述する。
 - ※ 児童生徒観で述べた課題との整合性を図る。課題としてあげているものについては、その解決に迫るような手立てを記述する。
 - ※ 最後の段落に『このような学習をとおして、本校の教育目標である「・・・」に迫りたい。』を挿入する。

4 指導計画（全○時間）

主な学習内容及び学習活動	時 間	評価規準(○○)と方法【○○】
1 をする。 ○ をする。 ○ を行う。	3 時間 (1) (2) (本時 1/2)	○ しようとする。 (関・意・態) 【発表・ノート】
2 について学習する。 ○ をする。 ・ 10倍すると小数点は右に動く。	7 時間 (1)	○ することができる。 (技) 【ワークシート】

※ 学習活動だけでなく、学習内容も記述するように気を付ける。

5 本時の目標

- することができる。(数学的な考え方)
- ※ 児童生徒の立場で表記し、観点を明示する。
- ※ 「4指導計画」との整合性に気を付ける。

6 本時の主張

- することで、. できるようにする。

・自分の研究内容に関して、本時の授業の目玉となる手立てと、その手立てでめざす子どもの姿を記述する。「(教師が) することで、(学園生が) できるようにする。」という形で書く。

(例)「きゅうりは夏によく育ち、冬には育てることが難しい野菜だ」という考えを揺るがす事象提示を行い、「寒い時期にきゅうりをどうやってつくっているのかな。」という自分の問題をもつことができるようにする。(研究内容：子どもに問いをもたせる導入の工夫 等)

(例)「定価の30%引きの代金は図のどこですか？」と発問することで、図を根拠としながら「100%から30%引いた、定価の70%の部分。」という説明を引き出し、「○%引き」の意味を実感を伴って理解できるようにする。(研究内容：式と図を関連させた話合いを生み出す発問の工夫 等)

7 学習指導過程

段階	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	評価 【評価方法】	資料・準備
導入 5分	1 ……つかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">めあて・目標</div> 2 ……見通しをもつ。	○ ……配慮する。		
展開 35分	3 ……を調べる。 自分の考えを相手に伝え、よりよい方法話し合う。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> ・どんな内容をどのように学習するかを、展開の順に児童の立場で記述する。 ・学習課題を明記する。 </div> 4 ……深める。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 「7本時の主張」に関わる手立ては、「◎」で記述する。「◎」は、基本的に1つ。 </div>	○ ……できるようにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> ・児童の学習を支援するという立場から記述する。 ・指導と評価の関連に配慮する。 ・特に支援を要する子どもがいれば、その手立てについても記述する。 </div> ◎ 「結局、B店の代金は図の中のどこですか？」と発問することで、「100%から30%を引いた70%の部分、ここが代金です。」というような図を用いた説明ができるようにする。	○ 定価の30%引きが、定価の70%であることを、図を用いて説明できている。【発言、ノート】	
終末 5分	5 ……まとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">まとめ</div>	○ ……気付かせる。		

※ 段階は全学年「導入→展開→終末」と表示する。小学部の段階としては、『導入「1つかむ→2見通す」→展開「3調べる→4深める」→終末「5まとめる」』という問題解決的な学習を意識して設定する。（語尾はそろえなくてよい。学習活動が5つ以上になることも考えられる。）

※ 評価の欄は、いずれかの段階に記述してあればよい。

※ めあて・目標とまとめは、単線の四角囲みにして、導入と終末の段階に記述する。

8 板書計画 ※板書のとおりを書く。

※ その時間の学習目標・まとめを明示する。（ジャスト3） ※ 構造的・計画的で、子どもが理解しやすい板書になるよう工夫する。 ※ 授業の流れとまとめがわかるようにする。 ※ 終了後、授業のふりかえりや家庭学習に活用できる板書を意識する。

【別紙 2】

研究授業と授業研究会に向けて

1 実施時期 10～12月

2 実施の流れ

- 10月上旬に、研究主任による研究授業と授業研究会（全員参加）を行い、授業研究会の進め方等の例を示す。
- 10～12月の中で「研究授業期間」を設定し、基本的に全員が研究授業を行う。（学校支援訪問での代表授業者は例外とする。）

研究授業は、基本的に同じグループの職員で参観するが、グループ外の職員が参観してもよい。（授業日時は、研究主任が取りまとめて、日案等で知らせる。）
- 「研究授業期間」終了後、職員研修（主題研）において、グループ内で順番に授業研究会を実施する。
- 授業研究会での意見を基にして、日々の授業において更なる改善を行っていく。

3 研究授業について

- 正式な指導案は作成しない。簡略版を作成し、授業に臨む。
- 授業者の「本時の主張」や、本校「学力向上ジャスト3」に沿って参観できるよう、参観用シートを研究部で作成する。シートに沿って参観する。

4 授業研究会について

- 各自が記述した参観用シートを基にして、「本時の主張」の有効性についての検証や、県教委の「分かる～4つの視点」がどうだったか等について意見交換を行う。

1 単元（題材）

2 本時の目標

○ ああああああ・・・（技能）

3 本時の主張

○ ……することで、……できるようにする。

4 学習指導過程

段階	学習内容及び学習活動
導入	1 ……つかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">めあて・目標</div> 2 ……見通しをもつ。
展開	3 ……を調べる。 4 ……深める。
終末	5 ……まとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">まとめ</div>